



ぶどう特報

No.9 H29. 8. 10
JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

- ◆栽培日誌の提出の準備を進めましょう。（出荷前提出の徹底をお願いします）
- ◆連日降雨が続いております、べと病発生園は定期防除を心がけましょう。
- ◆クビアカスカシバの食害が見られます。例年発生している園、心配な園は食害がないか確認をしましょう。
- ◆最後の防除になります。散布ムラや死角がないようにしっかりたっぷり散布しましょう。

【第11回ぶどう農薬散布】

散布時期	8月中下旬 または 前回から10日後								
散布薬剤	水	100ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td colspan="2">ℓ</td></tr></table>	散布日	月	日	散布量	ℓ	
	散布日	月		日					
	散布量	ℓ							
	ICボルドー66D	2.5kg							
ビッグマグ（葉面散布剤）	100g								
	※ICボルドー66Dに代えてボルドー液を使用する場合は、展着剤を水100ℓあたり10ml加用し、「4ー4式（生石灰 400g・硫酸銅 400g）」「ワインぶどう4ー2式（生石灰 200g・硫酸銅 400g）」とする。								
散布量	たっぷり 400ℓ 以上								
適用病虫害	べと病・晩腐病・さび病								
注 意 点	※周辺が住宅やもも園などでICボルドーを散布できない場合は、ムッシュボルドーDF500倍やコサイド3000 2,000倍を散布しても良い。 ① アメシロ・スカシバ発生園はアディオン水和剤 2,000 倍（収穫 7 日前まで5回）を加用する。 ② ボルドー液の薬効を安定させるため、KK-ステッカー（展着剤）3,000 倍を加用しても良い。ただし、必ずよく攪拌しながら投入する。 ③ 防除の際、隣接地がアスパラガスの場合は事前に園主へ連絡してください。 ④ ボルドー液は、もも・プラムに薬害が発生するので隣接園は絶対かからないようにする。								

【除袋前特別散布】

散布時期	9月上旬～中旬 除袋前の散布（収穫後半の健全葉維持）								
散布薬剤	水	100ℓ	<table border="1"><tr><td>散布日</td><td>月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td colspan="2">ℓ</td></tr></table>	散布日	月	日	散布量	ℓ	
	散布日	月		日					
	散布量	ℓ							
ICボルドー66D	2.5kg								
	ビッグマグ（葉面散布剤）	100g							
＊ICボルドー66Dに代えてボルドー液を使用する場合は、展着剤を水100ℓあたり10ml加用し、「4ー4式（生石灰 400g・硫酸銅 400g）」「ワインぶどう4ー2式（生石灰 200g・硫酸銅 400g）」とする。									
散布量	たっぷり 400ℓ 以上								
適用病虫害	べと病・晩腐病・さび病								
注 意 点	本年はべと病の発生が多いため、収穫後半まで健全葉を維持するため、除袋前にも防除を実施する！ ※周辺が住宅やもも園などでICボルドーを散布できない場合は、ムッシュボルドーDF500倍やコサイド3000 2,000 倍を散布しても良い。 ① ボルドー液の薬効を安定させるため、KK-ステッカー（展着剤）3,000 倍を加用しても良い。ただし、必ずよく攪拌しながら投入する。 ② 防除の際、隣接地がアスパラガスの場合は事前に園主へ連絡してください。 ③ ボルドー液は、もも・プラムに薬害が発生するので隣接園は絶対かからないようにする。								

◆農薬収穫前規制について◆

いよいよ露地ぶどうも収穫も間近となってきました。収穫を控え、使用できる農薬が限られてきますので下記を参考に農薬の安全使用に努めて下さい。あわせて、栽培日誌の整備も進めましょう。

農薬名	対象病虫害	使用倍率	収穫前日数	使用可能回数
ICボルドー66D	晩腐病・べと病・さび病	40倍	—	—
ムッシュボルドーDF	べと病・さび病	500倍	—	—
コサイド3000	べと病・さび病	2,000倍	—	—
イカズチWDG	アザミヤ類・カガムシ類・アゲハ類	1,500倍	収穫7日前まで	5回まで
アディオン水和剤	アザミヤ類（スリップス）・カガムシ・アゲハ類	2,000倍	収穫7日前まで	5回まで

べと病発生園で今後べと病剤を散布する予定のある方は、ぶどう担当までお問い合わせください。